

地震直後より、多くの卒業生の皆様からご心配のメールをいただきありがとうございました。毎年の年賀状のやりとり以上の方々からも連絡があり、大変うれしく思うとともに、長く続く伝統のラインの中に自分がいることを改めて思い知りました。また、同窓会からの震災復興支援の呼びかけにも多くの方々から暖かいご支援、ご配慮をいただきありがとうございました。

私どもの D 棟研究室、また星陵地区の研究室も一部機器の損傷はありましたが、1 / 2 階であったため比較的部分的なもので、現在では多少不便な点も残っておりますが、ほぼ通常通りの研究生活に戻っております。

震災後、食料の入手が困難な時期には、星陵地区の研究室を足場に、学生たちが手分けして食料の入手にあたり、お互いの、そして特に未だ生活に不慣れであった留学生の生活を支えてくれました。混乱の中、インドならびに中国からの留学生は一時帰国し、多くの学生も帰省しましたが、無事全員そろって研究を再開しています。大変な経験ではありましたが、学生たちの中に逞しさと仲間意識が育ち、今後の人生に必ずプラスになるものと確信しています。

今後とも益々のご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。